

(別添 4)

【宜野座村】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代において、未来を見通すことが困難な時代を生き抜く児童生徒を育成するためには、生涯にわたって学び続けるスキルを身に着けていることが求められている。

文部科学省による『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』に於ける、個別最適な学びでは、児童生徒の習熟度、学習の方法、理解度、興味関心も個々で異なり、それぞれにあった学び方（個別最適化）で進めていく学習が求められている。また多面的、多角的な視点で学ぶには、個別最適化された一人での学びではなく、そこで協働的な学びが必要となる。友人との対話を通じ、またクラウド上やオンラインでの友人との考えを共有し、対話を通じた深い学びが「探求」へと導かれる学習の場面等が想定される。

沖縄県における教育の「自立した学習者の育成」重点 1 では、「学習基盤としての ICT」による「児童生徒の学びに主体性を育む取組の充実」と記載されており、これまで以上に、1 人 1 台端末がクラウド環境の下で個別最適な学びと協働的な学びが一体となった学習ツールとして整備されている。1 人 1 台端末の活用が進化し、更に児童生徒が主体的に学び、対話的に学ぶことで資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

2. GIGA 第 1 期の総括

国の GIGA スクール構想が示されてから、本村では令和 2 年度末に児童生徒用・指導者用の 1 人 1 台端末の導入と校内ネットワークの整備を行い、令和 6 年度にはこれまでのプロジェクター型の電子黒板から、液晶型の大型電子黒板へ入替え、村内全ての普通教室と大部分の特別教室に設置した。これらハード面の整備と合わせてソフト面においても、教職員の端末等 ICT 機器の利活用をサポートするため、令和 3 年度より ICT 支援員等を 4 校に 3 名を必要に応じて循環する形で配置し、授業支援アプリやデジタルドリルの導入も行っている。これらの環境整備により、授業における ICT の利活用を推進している。

また、ICT 活用指導力の向上と学校間における横展開を図るため、ICT 支援員との毎月 1 回の報告会を開催し、学校現場の ICT 利活用の成果と課題を確認している。また、各学期に教育委員会と各学校の情報教育担当と ICT の活用を推進する研修会を開催している。さらに、村内教職員夏季研修会では外部の専門講師を招聘し、授業や校務における ICT の効果的な活用に向けての実践的な研修会を開催し、他の学校職員と情報やスキルを共有する横展開も図っている。

一方で、ICT の積極的な活用が進むにつれて、学校間や教職員間において ICT 活用状況や活用能力に差があることがはっきりと現れてきており、それぞれの教職員のスキルに合わせた校内研修の開催や小規模校での単学級の教材研究や活用促進が課題となっている。

学校のネットワークに関しては、村人口比による通信帯域にゆとりがあるため、今後はデジタル教書や生成 AI の導入による通信容量のひっ迫に備え、ネットワークアセスメント等による課題を確認し、北部広域による SINET の接続による対策を講じながら、ネットワーク管理を

行っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA スクール構想により1人1台端末等の整備、活用を始めてから4年目に入り、学校での授業や家庭学習での端末の日常的な活用が根つきつつある。そうしたなか児童生徒の学びの道具としての1人1台端末は、端末整備・更新計画に基づき引き続き適切に維持・更新していくことを前提として、以下のように利活用していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

本村では、端末の毎日の活用、家庭学習での持ち帰りが行われており、端末の積極的な活用に取り組んでいる。そのため、事故による破損も見られ、次期端末に於いては堅牢な端末の選定と平易な維持管理が求められている。また、生成AI等、新たな学習コンテンツを用いた学習への移行を踏まえたアカウントの作成並びにシステムの構築や管理コンソールの整備が必要となっている。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

端末を効果的に活用することにより児童生徒が、自分の特性や理解度・進度に合わせて学習を進める「個別最適な学び」や、他の児童生徒の取り組みを共有することでアイデアやヒントを得たり、自分と同じ考えや異なる多様な考えに触れることで自分の考えをさらに深め、興味を持った友達と意見を交わす「協働的な学び」の充実に取り組んでいく。

(3) 学びの保障

特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施する。また、希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供する等、様々な困難を抱える児童生徒への支援策として、多様な場面で1人1台端末を活用していく。

今回の端末整備・更新に向けて、教師の校務や研修での利活用を促進し、クラウド活用の体験を十分に満たし、授業や授業外での活用にも幅を広げていくことが求められている。新しい授業観に向けた授業改善のため、国・県の動向も踏まえ、実践的な研修の充実を図り、児童生徒の学びを豊かにし資質の向上を図るための利活用に向けて活用スキルを高めていく。

県内外の先進地域（リーディングDXスクール指定校等）の研究実践報告会の視察やオンライン研修を積極的に行い、先進地域の取組や事例から学び、授業実践や校務のDX化に活かしていく。

今後は、教師のみならず、保護者や児童生徒のコミュニケーションツールとして利活用も期待できる。また、災害時の学びの保障や校外学習における学びの環境を構築し、標準仕様のツールを組み合わせ「いつでも・どこでも」クラウドネイティブ時代の環境を活かした学びの充実を図っていく。

文部科学省や沖縄県との支援では、沖縄県教育庁県立学校教育課教育DX推進室の取り組みと連携し、校内研修の支援や授業改善に努める。また、国の支援として文部科学省学校DX戦略アドバイザー、文部科学省GIGA StuDX推進チームも活用し、研修支援や授業支援を行い、新たな情報技術の革新に向けた1人1台端末の利活用とその環境整備を促進していく。